

# 繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

## こふきのひろめ

### ◆ 何をひろめるか？

前回の巻頭言で「ひろめ一条」について触れた。予告通り、今回は「何をひろめるのか？」について考えていきたい。

最初に結論を述べたい。我々よ、ぼくが世界にひろめていくものはこふき（こうき）である、と私は考える。

こふきというキーワードに着目したのは、教祖140年祭後は「ひろめ一条」を繁藤の活動方針の軸としていきたいと考えだしてからである。しかし、これこそが最近の言葉でいうと「沼」であった。要するに、没入して抜け出せないほど奥が深いものだったのだ。

### ◆ こふきの漢字

こふきに向き合うにあたって、まずもって大きな道標となるのは、二代真柱様が書かれた「こふきの研究」という書籍である。

冒頭、こふきという言葉にはどんな漢字をあてるのが相応しいかについて触れられている。まず教祖御在世当

時、お傍の高弟「※1」が記されたものには「古記」の漢字があらわれていた。いわゆる「泥海古記」である。これは「此世の元初まりのお話」、つまり神様がこの世界や人間を創られた起源の話で主であった。

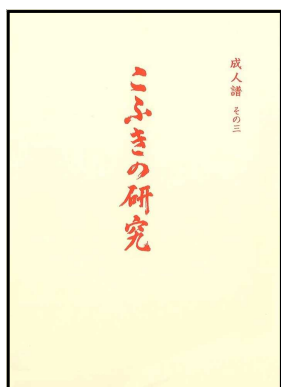
日本国でいえば古事記の神話。キリスト教でいえば、聖書に記されているアダムとエバ（イブ）の創世記である。そして、古記の他にも光輝、功記、後記という文字をあてられた例も見受けられるという。

このことを踏まえて二代真柱様は、

（教祖が）親しく誌されたおふでさきに対して、口授して書き取らしめられた「記」を「こふき」と呼ばれたものであり、強いて字を当てれば、「口記」の方が寧ろ、本来の意味を寫す文字ではないかと考えるのであります。

と述べられた。

「※1」高弟…弟子の中で、特にすぐれている者。



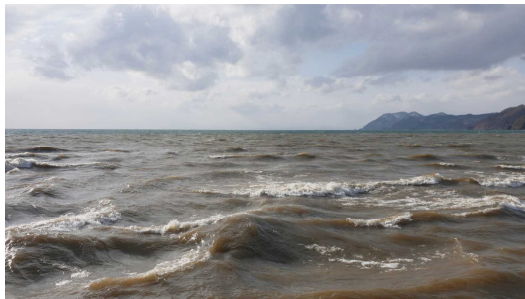
### ◆ 一旦、固定観念を捨てよう

こふきという言葉にふれたとき、ほとんどのの方が連想するのは、

「泥海古記」、つまり「元初まりの話」、そして「元の理」であろう。天理教教典の第三章にある、「この世の元初りは、どろ海であった…」で始まる内容だ。ただ、このたび私が皆さんに望むのは、その固定観念やイメージは一旦捨ててほしいということである。「古記」の文字にとらわれると本来のこふきの全貌、神意をつかむことの妨げになってしまう恐れがあると考えるからだ。つまり、こふきとは「元初まりの話」や「元の理」だけに留まる内容ではないのである。

今後、皆さんとこふきについて思案を深めていくにあたり、まっさらな気持ちで、あえてこの平仮名のこふきに向き合っていきたい。

その上で、「こふきとは何か？」を私なりに一言でいうと、「教祖が主に口で伝えられたことを、お傍の高弟が受け止め、書き記したものである。まずはこふきにふれる初回に、かく仮定したい。



### ◆ 無知の知

ところで、私事になるが、教会長になって今年の2月で丸4年が経った。まだまだ未熟者ではあるが、天理教の教理について、多少は頭で分かっているつもりでいた。しかし近頃、こふきに関する書物を何冊も繰り返し読んでいる中で、徐々に心に浮かんできたことがある。

「ああ、自分は何も分かっていたのかもしれない」

ということだ。まさにソクラテスの「無知の知」の出発点に立った、そんな気持ちである。

おふでさきを読むと、こふきはこの世の「もと（根源・根本）」あるいは「しんぢつ（真実）」とも言い換えられる。その「もと・しんぢつ」を知り、深め、掘んでいくことは人生をかけて取り組むほどのものだと感じた。回を重ねてこふきをテーマに思うところを記していく予定だが、簡単にまとめることはとてもできそうにない。1年どころか、5年、10年、いやもつとかかるかもしれない。

教祖140年祭を終え、こふきを深く掘り下げていきたいと思った今の起点を、大げさではあるが私の中での「こふき元年」としたい。

### ◆ ワクワクした気持ちで

ここで一点、ことわっておきたい。このたび、こふきを深掘りしていく決心をしたわけだが、決して学術的に論じていきたいわけではない。そもそも「元初まりの話」や「元の理」などは理解したい、もしくはとっつきにくいと感じる方が少なくないだろう。

そこで前提をいくつか挙げておきたい。

まず、あくまで私の第一の目的は、皆さんと共にこふきをひろめていくことだ。だからこそ、念頭に置きたいのは、興味深く、かつ

分かりやすさを心掛けたいということである。

むずかしいことをやさしく、

やさしいことをふかく、

ふかいことをおもしろく、

おもしろいことをまじめに、

まじめなことをゆかいに、

そしてゆかいなことはあくまでゆかいに。

これは以前紹介した、ひよっこりひょうたん島を代表作とする作家の井上ひさし氏の名言だ。これが私のモットーである。

もちろん、できうる限り原典はもちろん、史実や文献等の根拠に基づいていく姿勢はしっかりと持ちたい。その上で批判を恐れずに、理の思案や悟りを私らしく大胆に展開していきたいと考えている。

このこふきという分野については、教義が明確に固まっていない側面が多々ある。だからこそ、いろいろな捉え方ができるし、議論の余地が大いに残されている。私への異論反論は真摯に受け止めていきたい、というか大歓迎である。ぜひ皆さんのご意見、コメントをお待ちしている。

## ◆ 結びに

最後におふでさきを一首紹介して、今回の締めくくりとしたい。

このねへをしんぢつほりた事ならば

ま事たのもしみちになるのに

(5号66)

「おふでさき註釈」

もしこの根本の真実を真に

悟った事ならば、まことに

頼もしい道になるものを。

“ひろめ一条”を掲げるといっても、布教というイメージから連想しがちな、「しななければ」ということを皆さんに押し付けるつもりはない。また、私自身もそのような気持ちで歩んでいくことは極力したくない。

先述のおふでさきの通り、この世界・人間の“もと・しんぢつ”、つまりこふきを掘り下げていった先に、陽気ぐらしという頼もしい道が待っているんだ。そんなワクワクした気持ちを皆さんと共有しながら、希望を持ってこの道を求めていきたい。

立教一八九年四月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男



【立教百八十九年 三月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教  
繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には、たんくんと神の心とゆうものわふしぎあらハしたすけせきこむ  
と、神の自由を見せて、一列を陽気ぐらしへとお導き下さり、御守護下さいま  
す厚き親心の程、誠に有難く勿体ない限りで御座います。私共は御恵みを頂  
いて大難は小難、小難は無難へと切り替えて頂き、心の理を高めて成人の道を  
たゆみなく前進させて頂いておりますが、その中にも今日の吉き日は、御教え  
の元一日の理を受けて、当教会に御許し頂いております月々の御祭日に当た  
りますので、只今からお役に預かるおとめ奉仕者のよふべく一同、心を合わ  
せ、座りづとめ、てをどりをつとめ、三月の月次祭を執り行わせて頂きます。御  
前には、今日を樂しみに寄り集った道の子供達が、高らかにおうたを唱和し、  
日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、尚一層の成人をお誓いさせて頂きま  
す。また本日午後より、教会長夫妻ならびに在籍者の集いを開催致します。  
年祭後の動き出しにおいて、繁藤の名称の理に繋がるお互いが勇ませ合い、一手  
一つとなつて歩いていく契機とさせて頂きます。更には又、今月二十八日には  
教祖百四十年祭学生おぢがえり大会が開かれます。一人でも多くの道の学  
生達がこの旬にをやの息をかけて頂けるよう、しっかりと参加を促していく所  
存でございます。加えて、三十日に行われます、少年会繁藤団おとめまなび  
総会においては、幼少年育成の機会を活かし、繁藤の仲間同士の結びつきを築  
き、おとめの大切さ、そして信仰の喜びを子供達に伝えさせて頂きたく存じ  
ます。

私達教会長をはじめ、よふべく一同は、この旬に改めて足元を見つめ直し、世  
界たすけへの歩みを着実に進めると共に、道の将来を担う人材の育成に精一杯  
の母精をさせて頂く所存で御座います。各教会、各家庭において、親から子、  
子から孫へとお道の信仰が切れ目なく繋いでいきますようお導きの程を、また  
互い立て合い助け合いの陽気ぐらしに睦み楽しむ世の状に、一日も早く立て替  
わりますよう御守護の程を一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十九年三月月次祭 祭典役割》

祭主		指図方		扨者		扨者		男		女		地方		笛		チヤンポン		拍子木		太鼓		すりがね		小鼓		琴		三味線		胡弓		神殿講話																					
大教会長		宮田孝道		佐藤栄治		安部道郎		伊藤正福		田村省悟		座りづとめ		大教会長		前大教会長		田村辰久		大教会長夫人		前会長夫人		黒石伸子		宮田孝道		田村久徳		佐藤成彦		田村英士		村上英士		為田紀久男		藤田憲明		佐藤栄治		坂本久徳		為田基紀		佐藤順子		村上美栄子		空閑さとの		宮田孝道	
佐々木 恵		田村省悟		村上由高		空閑慶吾		高橋道則		藤田 誠		てをどり前半		安部道郎		田村聡佐		伊藤正福		田村睦美		武市まち子		田村美由紀		藤田一憲		川田節夫		前田 豊		田村省悟		空閑一教		空閑一将		佐藤節幸		立花真一郎		佐々木 恵		佐藤明子		佐藤文代		為田賢子		宮田みなみ			
てをどり後半		村上由高		黒河明大		坂井博文		黒石美佐		村上 綾		阪本喜代子		空閑慶吾		立花孝一		佐藤孝彦		藤田善典		高橋道則		土居道久		近藤太一		藤田 誠		宮田教一		空閑 都		空閑真理代		宮田みなみ																	

## 【神殿講話（縦の伝道者講習会）】

（4月） 中山昭悦先生

本部准員 本明實分教会長

## 【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

5月16日～30日 種崎

11月1日～15日 別府

○婦人会詰所ひのきしん

4月17日～19日（別府・佐岡各1名）

4月25日～26日（大教会 2名）

## 【在籍者・教会長夫妻の集い】

去る、3月21日「在籍者・教会長夫妻の集い」を祭典終了後に開催させて頂きました。

集いではまず、大教会長より活動方針の発表があり、教祖年祭後の歩み出しについて、お話し頂きました。続いて、新体制、年間活動の発表があり、その後、年祭活動の振り返りと、新たな歩み出しについて、ねりあいを持たせて頂き、夕づとめ後には、教祖年祭の慰労もかねて会食の場を設けさせて頂き、集いを終えさせて頂きました。

## 【教会長神殿当番】

（4月） 繁金・方城

（5月） 富久地・赤池

## 【詰所教養掛】

（4月） 田村聡佐

坂本信子

（5月） 安部道郎（前半）

藤田誠（後半）

## 【詰所事務当番】

（4月） 佐藤孝彦（誕生祭）

高本孝三（月次祭）

（5月） 宮田教一

## 【婦人会・少年会・青年会費納入のお願い】

令和8年度の各会費の納入を、左記の通り

お願い致します。

・婦人会 一名称 六〇〇〇円

・少年会 一名称 六〇〇〇円

・青年会 一名称 六〇〇〇円

納入については、各会責任者もしくは会計担当者にお納め頂き、必ず領収証を受け取つ

## 【婦人会】

## ◇「御赤衣料」について

繁藤支部婦人会では、毎年教祖ご誕生祭に「御赤衣料」として御供をさせて頂いています。ご賛同いただける方は、直属教会を通して大教会までお届けいただけますようよろしくお願いいたします。

## ◇天理教婦人会第108回総会

## 『別席者とともに』

式典 立教1989年4月19日(日)

午前9時30分

場所 本部長中庭、南・東礼拝場前、

西境内地

式典終了後、支部の集い(詰所4F大広間)

※式典後、当日いただいたお言葉の振り返りをいたします。

たくさんの方にお集まりいただけますよう、お声がけよろしくお願いいたします。

※19日の詰所での昼食は帰参者全員お弁当になります。お弁当はお茶付きで500円です。ご注文される方は、4月15日までに必ず詰所までお申し込みください。

## ◇記念行事『講演会』

4月18日(土)午後5時

テーマ「おやさま」

・第二食堂(第五食堂 映像)

河原町支部長 深谷靖子

・東講堂(旧別席場 音声のみ)

名京前支部長 諸井恵美子

・東右第一棟4階講堂

明拝支部長 宮森みよゑ

・東左第五棟4階講堂

アメリカ婦人会主任 深谷宏美

## ◇こかん様につづく会(繁藤支部)

日時 4月18日(土)

18時以降開始予定

場所 繁藤詰所

内容 女子青年大会に向けて

## 【少年会】

## ◎おつとめまなび総会

去る、3月30日今回で43回目になります『繁藤団おつとめまなび総会』を開催させて頂きました。

おつとめでは、各隊で一生懸命に練習してきてくれたおつとめを、元気いっぱいとしてくれておりました。引続いでの式典では、少年会長様からの「ご告示」を育成会長様が代読し、続いて子供達にわかりやすくお話を下さり、次に新入学の子供達一人ひとりに記念品を贈呈下さいました。その後食堂周辺で模擬店・ゲーム・抽選会・室内オリンピックで楽しい時間を過ごさせて頂きました。夏のこともおちばがえりです。今度はおちばでまた会えるよう声がけをして、無事に勤め終えさせて頂きました。

育成会員の皆様には、お世話取りをいただき誠にありがとうございました。

今後も少年会の活動の上に、変わらぬお力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

おつとめまなび総会参加総数

少年会員57名・育成会員67名

## 【学生会】

## ◎教祖140年祭 学生おちばがえり大会

教祖140年祭学生おちばがえり大会も無事終了、繁藤に繋がる学生さん達も例年以上におかえり下さいました。

式典後の『直属アワー』では、大教会長様の講話を頂き、詰所ひのきしんをした後、玄関前駐車場にて鉄板焼きにて昼食、その後レクリエーション、お楽しみタイムでは大いに盛り上がりました。そして、その後全員で神名流し、本部神殿回廊ひのきしんをさせて頂きました。

この度のおちばがえり大会に於いて、学生さん動員の声掛けにお心寄せ、お力添え賜りました教会関係の皆様にも、改めて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

繁藤学生会参加総数

・学生20名

・学担委員会、スタッフ総勢9名

【にをいがけチラシ】

以前から、にをいがけチラシを大教会より配布していましたが、今後は「続・ちよつとひとこと」として毎月新たなチラシを作成、配布します。新しいチラシのサンプルを、今月から月報に同封します。

大教会の新たな活動方針の項目の一つに「まずはチラシ配り3枚から始めよう、続けよう」とあります。教会長はもちろん、信者の皆様を含め、にをいがけの実働に勇んで励ませてもらいましょう。

なお、現在お渡し致しておりますチラシの枚数は、それぞれ申込みのありました枚数です。枚数の変更や、新たにチラシの送付を希望されます方は大教会までご連絡ください。

【おさづけの理拝戴者(2月)】

方城 北原龍之介

【修養科志願者(4・5・6月)】

城下 藤田洋美

空心 安藤啓二

空心 安藤恒子

【をびや】

1 件





天理教少年会 おつとめまなび総会  
 繁 藤 団

